

活動地

マレーシア ボルネオ島サラワク州 & 半島部クダ州



クダ州ムルボック湿地保護林
マングローブ林再生プロジェクト

サラワク州アペン国立公園
青少年研修プログラム



クダ州「マングローブ林再生プロジェクト」

マングローブ林が生育する湿地帯は、世界の陸地総面積のわずか3%ですが、世界中の陸地に蓄えられている炭素量の30%を保持していることから、生物多様性の保全だけでなく、地球温暖化防止のためにも、マングローブ林の再生は喫緊の課題となっています。

「木下の森」植林プロジェクトでは、2019年度から、マレーシア半島部クダ州ムルボック湿地保護林において、マングローブ林再生プロジェクトを実施しています。

同保護林は、マレーシア半島北部に位置し、スマトラ島沖大地震が発生した際に海岸沿いで津波被害を受けた地域にあります。森林の構成樹種が多く、鳥類が約80種類確認されているなど、多様な生態系が見られます。しかしながら、周辺地域の開発や伐採等による森林の劣化、消失が進んでおり、森林だけでなく、地域に暮らす漁民の生活環境にも影響が出てきています。

本プロジェクトでは、地域社会やマレーシア理科大学等との協働により、育苗・植林と環境教育プログラムなどを行い、マングローブ林の再生による生態系の保全と、炭素貯蔵地として貴重な湿地を守る活動を行っています。

2018年11月、マレーシア政府は活動地を含む一帯を「ジュライ・ジオパーク」と定め、今後、ユネスコ世界ジオパークの認定を目指すことが表明されました。

「木下の森」が世界のジオパークの一つとなるよう、関係者と取り組んで参ります。

ムルボック湿地保護林の森林劣化地域にて、地域の村人、子供たち(小中高校生)、教員、大学生、村人らと協働し、育苗・植林作業、苗畑・作業場の整備、地域内外の小中高生や大学生などが参加する教育プログラムなどを行っています。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の活動制限や規制が行われたため、大勢が集まるプログラムは実施できませんでしたが、村人による育苗・植林作業、マスク寄贈、小学校における教育プログラムの準備などを実施しました。

村人によるマングローブ育苗・植林

昨年は「活動制限令」による活動休止期間がありましたが、専門家の指導のもと、育苗・植林活動を行いました。村人による限られた人数での作業となりましたが、7,000本の植林を実施しました。

活動地域の村落と学校へマスク寄贈

クダ州の活動地域村落でも、学校ではマスク着用となり、外出する際はマスク着用が義務となりましたが、村落地域ではマスクを常時確保するのは困難なため、日本から送ったマスク2,500枚を、協働団体のマレーシア理科大学地域拠点センターを通じて、活動地域の村落と小学校に寄贈しました。これからも定期的なマスク寄贈を続ける予定です。

[マレーシア理科大学地域教育拠点センターがニュースを発信](#)

活動地域の小学校で環境教育プログラムを計画

2020年9月に、活動地域にあるハジ・オマー・タヒール小学校が環境教育プログラム拠点校となり、マングローブ保全に関する学習用展示スペースの設置準備などを開始しました。政府により学内でのプログラムが許可され次第、実施する予定です。

Jerai Geopark



Geotapak

- Evolusi Geologi
- Evolusi Landskap Geologi
- Geologi Kuarterner

Geoarkeologi

- Kompleks Arkeologi Sg. Batu
- Kompleks Arkeologi Batu Pahat
- Kompleks Arkeologi Pengkalan Bujang

Kepelbagaian Biologi

- Hutan Simpan Gunung Jerai
- Hutan Simpan Merbok

Sejarah dan Budaya

1. Jambatan Merdeka
2. Pintu Gerbang Kuala Muda
3. Kesan Tsunami Pantai Kuala Muda
4. Kubu British Bukit Penjara
5. Istana Pulau Tiga
6. Gok Arang Sungai Merbok
7. Makam Sultan Muzaffar Syah 1
8. Masjid Pengkalan Kakap
9. Kampung Acheh
10. Kompleks Telaga Tok Sheikh
11. Terusan Wan Mat Saman
12. Nira Tanah Sedaka

ジュライ・ジオパーク(黄線枠)
 ムルボック湿地保護林(赤線枠)

植林活動地(青線枠)

活動の様子



活動地域の村人が育苗作業



植栽木が順調に成長



村人が主体となって植林作業を実施



2020年12月、植林地に看板を設置



村の子供たちが植林やメンテナンス作業に参加(2021年3月)



植栽木が順調に成長(2021年3月撮影)



活動地域の村落にマスクを寄贈



活動地域の小学校へマスクを寄贈



地域の小学校でマングローブ学習用展示スペースの設置について協議



地域の教育プログラム拠点校のハジ・オマール・タヒール小学校とオンラインで協議



環境教育プログラム用資料を作成



学校関係者がマングローブ植林活動地を訪れ、村の作業チームと意見交換